

『一生懸命』幻の新座市議会報告第62弾!



たかむらともや

2010年11月30日発行

臨時議会

11月25日(木)に臨時議会がありました。議案第82号は「新座市議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例」要するに、僕らのボーナスを7万ほどカットするという条例案が提出されたのです。僕はタダ一人この議案に反対しました。しかも、反対討論までしたのです。僕らの議員報酬はそんなに高い訳ではありません。市の職員の平均よりも低いのです。国会議員のように年間1億近くも貰っている訳ではありません。年収は13年前の教員時代の給料よりも200万近くも低いのです。名古屋市議(約1500万)とは違います。僕ら議員にだって生活はあります。そりゃあ・・・議場で何もしないで、寝てばかりいて、野次を飛ばして年に600万以上貰うのは反則でしょう。どこの市にもそういう議員がいるかも知れませんが、でも、市民の気持ちを代弁し、議案を調査し、自分の考えを議会で述べ、提案し、毎月(あるいは毎日)市民に報告するのはそんなに簡単なことではありません。この議会報告も「政務調査費」が使える訳ではありません。全て、月々の報酬の中から何とか捻り出しているのです。今回のボーナスで削減される7万円は、我が家にはかなり厳しい。学校の先生よりも大変なことだって沢山あります。反対討論の中で「我が家の洗濯機はこれで買い替えられなくなる・・・」と僕は本音を言ったのですが、脱水機が壊れ、大きな音を立てる洗濯機はいつになったら、買い換えられるのやらです。今回の臨時議会では市の職員の給料の引き下げ案も提出されました。国の人事院勧告に従うものですが、北海道も沖縄も含めて平均したもので、関東甲信越という地域で見れば、まだ民間の方が公務員よりも給料は高いのです。景気がいい時は民間より遥かに安い給料で働いてきた公務員。ところが景気悪くなると、「公務員の給料が高い」と狙われる。おかしい話なので反対しました。



川掃除のメンバーです。ここに写っているのは一人を除いて全員五中の卒業生です。(1期・4期・7期生)

たかやんのプロフィール

本名たかむらともや。国家公務員だった、父新太郎と母ひさ子の三男として、東京都新宿区に生まれる。新宿区立西戸山中学、都立石神井高校を経て北海道大学へ。大学3年の時、突然教師になる決意をする。77年から教師として五中・六中・二中で21年間を過ごし98年退職。04年初当選。どの会派にも属せず一人会派「語る会」で、しがらみのない発言をし続けている。新堀・石神「たかやん塾」塾長。「黒目川川づくり懇談会」代表。石神3丁目在住。趣味はテニス・サッカー・料理・読書・カメラ・川掃除。新座五中・六中の男女硬式テニス部を率いて、県大会は50回以上、関東大会5回、全国大会2回優勝。学級通信「一生懸命」を20年間発行し続ける。議員日記は6年と8ヶ月毎日更新。アクセスは13万回を超える。小中高生と先生・保護者の生の声を聞きながら、日々教育を考え「観光新座ではなく、教育新座」を訴えている。ご感想・ご意見・ご提案をお待ちしています。たかやん



たかやんの連絡先

自宅 042-456-8869

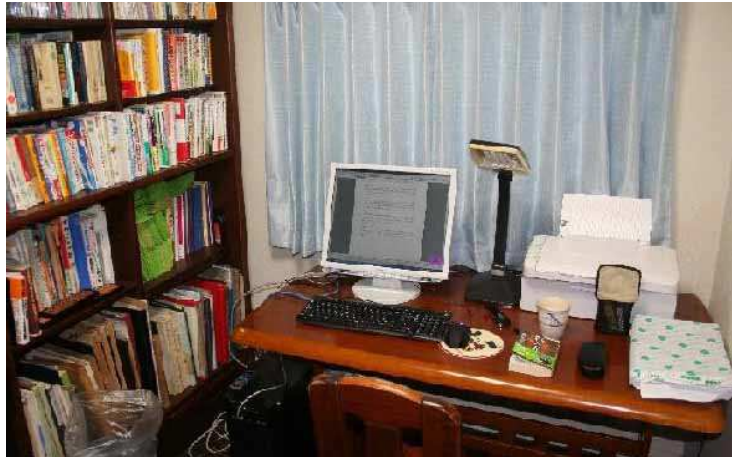
携帯 090-6497-5737

mail: takayanchan@jcom.home.ne.jp

〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ パソコン

我が家のパソコンが遂に壊れました。この11月号の発行が遅れたのはその為です。それを助けてくれたのが友達のまーちゃん。秋葉原で部品を買ってきて、組み立てて、格安のパソコンを作ってくれたのです。このパソコンのプリンターにはスキャナーも付いているので、昔の写真が取り込めます。それで懐かしい写真を毎日のように日記に掲載できるようになりました。



これが新しいパソコンです。机の左下にある大きな箱がそうです。大きな机は塾で使わなくなった机を持ってきたのでタダ。スキャナーも乗るし、スタンドも乗るので、本を読んだり、勉強したりできる便利で落ち着いた空間になりました。パソコンは超高速になったのに、前のパソコンよりも安いのですからビックリです。みんなまーちゃんのお陰です。この新しいパソコンで、どんどん情報発信していきたいと思っています。



今から42年前の写真です。右から2番目が僕です。中学3年生の謝恩会での初ステージで、フォークルの「イムジン川」を歌っている写真だと思います。貧乏だったので楽器が買えず、僕の役割はヴォーカルでした。(この写真ではハモっていますが・・・)

③ なにが観光都市だ！

市民のみなさんが一番疑問に思うのが「観光都市新座づくり」という言葉だと思います。この観光都市づくりは平成18年度に始まり、もう5年が過ぎようとしています。「観光なんか力を入れても税収が上がるどころか、落ち込むだけだよ！」「そんなことより、保育園を何とかしてよ！」「他にもやることは沢山あるだろうに・・・」という多くの市民の声は市政にはなかなか届きません。そういう仕組みになっているのです。市の職員は思っている、言えないでしょう。議会の方は市長与党が大半の19名(政和会・並木へ・並木ま・森田・小池・嶋野・榎本・平野議員、公明党・亀田・細田・川上・白井・中村・北村議員、刷新の会・平松・島田・中村・佐原・柴崎議員)ですから、観光新座に文句を言う人はいません。観光新座はないでしょう！やめましょうよ。と、面と向かって言えるのは共産党と僕しかいないのです。こうして観光新座は歩き出し、今後の10年の市の方向性の大本になる「第4次基本構想総合振興計画」(12月議会で決定)に於いても、その中心となっているのです。新座市の市政の中心が「観光」などであっていい訳がありません。観光で税収が上がる訳がありません。景気が落ち込んでいる今、観光で新座市の経済が活性化するなどということはいえないと語る会は考えています。市長は言います。「フィールドミュージアムなんです」「市全体を博物館にするという考え方なんです」それに「意義あり！」と手を上げ、発言する議員はたったの7名しかいない。それが新座市議会の現実です。

③ 経済観光部

12月議会には来年度からの「組織機構の改正案」も提出されます。新しく「経済観光部」を設置するというのです。観光にいいよ本気になろう、ということなのです。市長与党は勿論、賛成するでしょう。共産党が賛成に回って、僕はまた一人になるかも知れませんが、それでも勿論、反対する積りです。「観光新座」ではなく、「教育新座」が僕の願いです。不況で苦しいからこそ、教育にかける。それが新座は勿論、日本が生き残る道だと思っています。